

**基準津波水位(水位上昇側)の  
年超過確率の差に関する考察について**

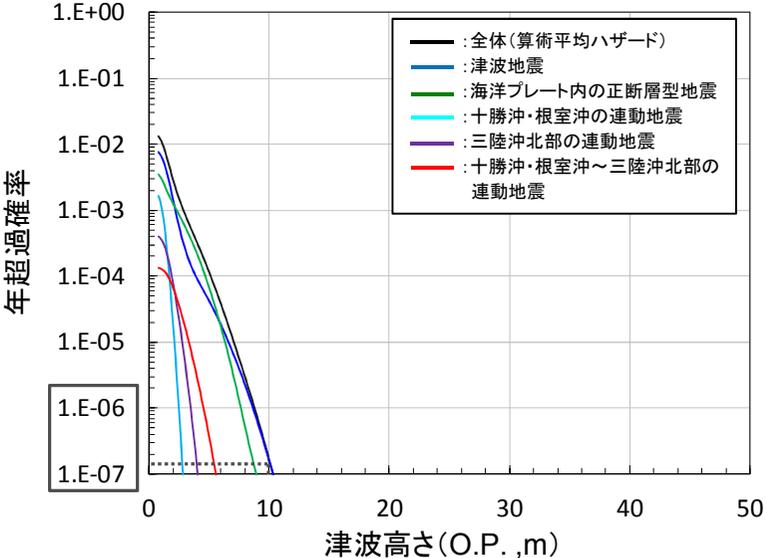
**平成29年4月11日**

**東北電力株式会社  
日本原子力発電株式会社**

- 年超過確率の差(2オーダー)は、以下2点によるものと考えられる(詳細は、次頁以降に記載)。
  - ① 全体ハザード曲線に対する海洋プレート内地震の影響
  - ② 基準津波波源(地震規模)

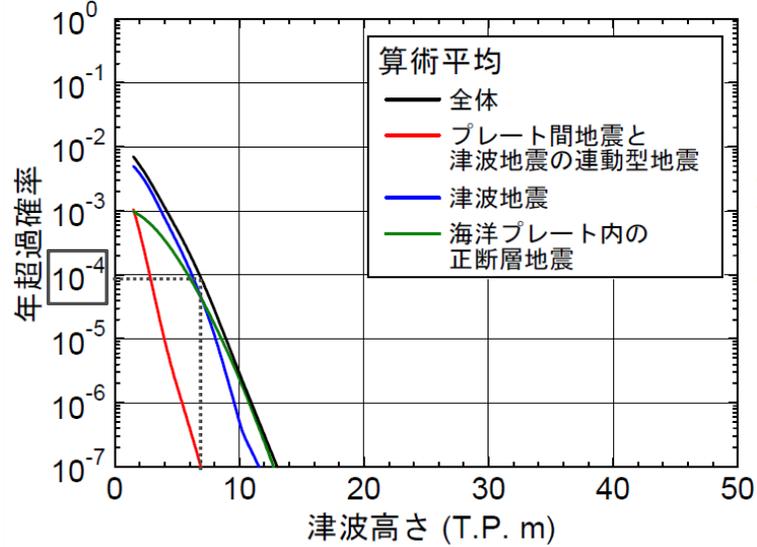
■ 基準津波策定位置における津波ハザード曲線(水位上昇側)

【女川※】



基準津波	津波水位	年超過確率
水位上昇側	O.P.+10.1m	10 <sup>-6</sup> ~10 <sup>-7</sup> 程度

【東海第二】



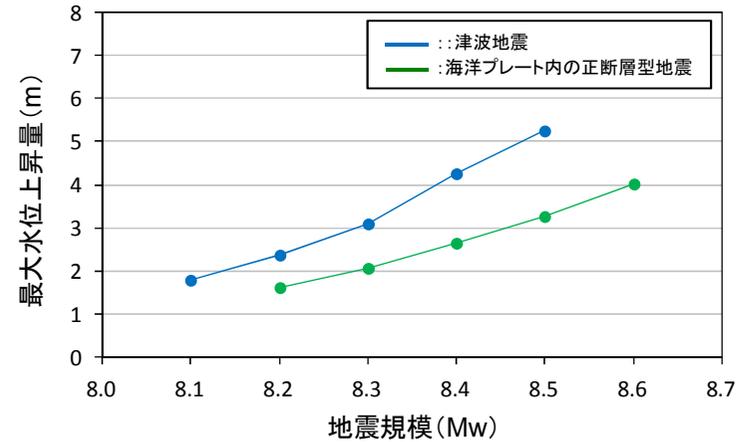
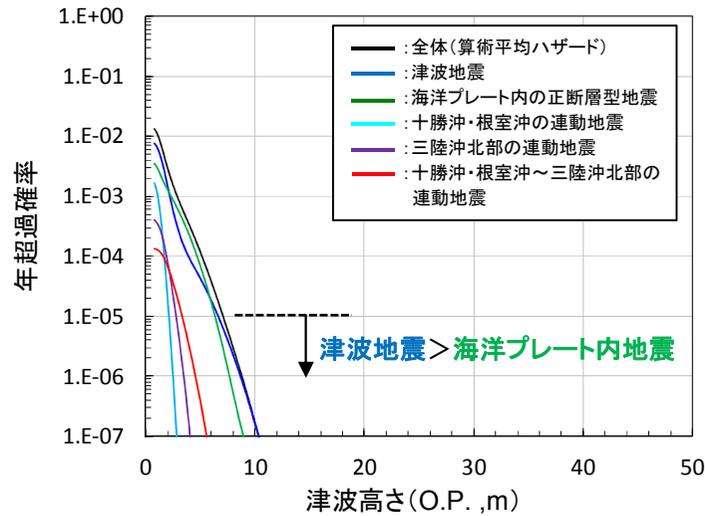
基準津波	津波水位	年超過確率
水位上昇側	T.P.+7.1m	10 <sup>-4</sup> 程度

※:東海第二との比較のため、津波地震、海洋プレート内地震、十勝沖・根室沖~三陸沖北部の連動地震の線の色等を本資料から変更している。

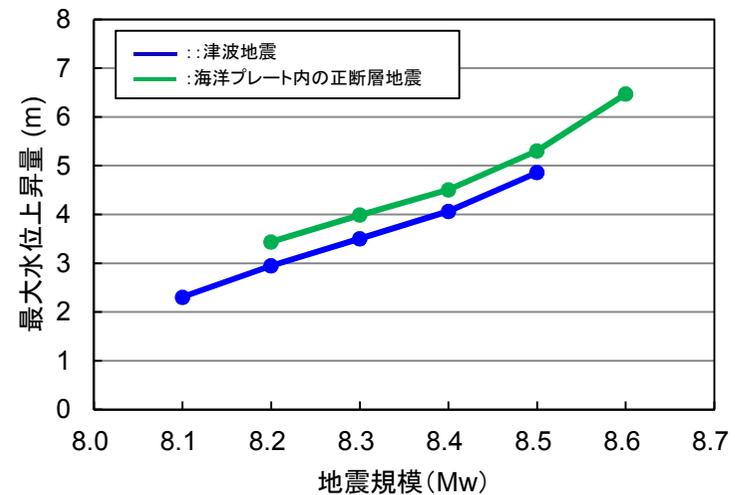
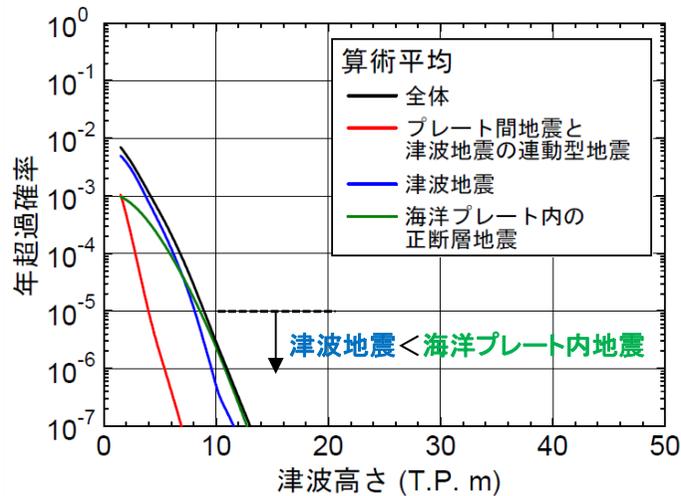
①全体ハザード曲線に対する海洋プレート内地震の影響

- 全体ハザード曲線は、両サイトともに、津波地震・海洋プレート内地震が支配的である。
- 基準津波策定位置における水位(最大水位上昇量)を比較すると、津波地震は同程度であるが、海洋プレート内地震について、女川は津波地震よりも小さいのに対し、東海第二は津波地震よりも水位が大きい。これは、海底地形など、サイト特性の違いによるものと考えられる。
- 上記が全体ハザード曲線の差に現れており、同じ水位に対して、東海第二の年超過確率の方が全体的に高くなっている。

【女川】



【東海第二】

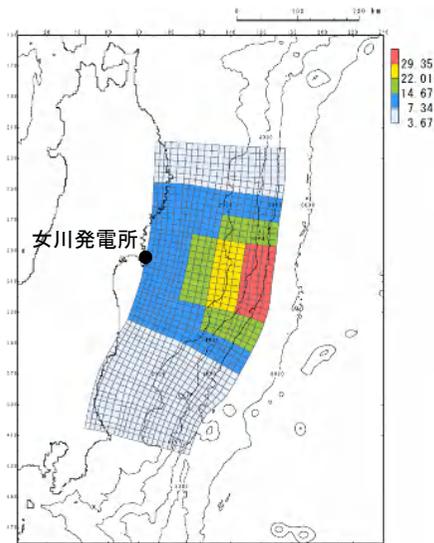


## ②基準津波波源(地震規模)

- 女川の基準津波波源の地震規模はMw9.0であるのに対し、東海第二の地震規模はMw8.7であり、この差が基準津波策定位置の津波水位の差に現れている。

### ■基準津波波源

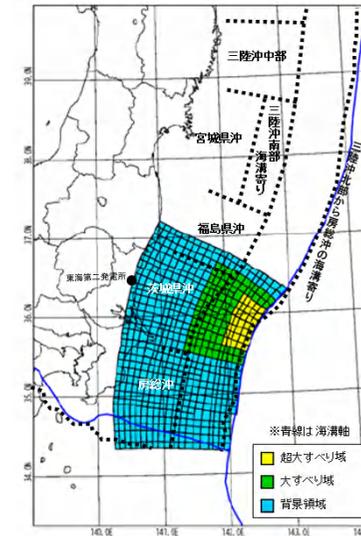
#### 【女川】



東北地方太平洋沖型の地震  
(基準断層モデル③, Mw9.0)

基準津波	津波水位
水位上昇側	O.P.+10.1m

#### 【東海第二】



茨城県沖から房総沖に想定する津波波源  
(Mw8.7)

基準津波	津波水位
水位上昇側	T.P.+7.1m